

2020年3月期第2四半期決算説明会要旨

スピーカー 代表取締役社長執行役員 古屋 元伸

2019年11月6日 東京

2019年11月18日 京田辺本社

◆2020年3月期上半期実績は、減収減益となったが、計画は達成。

当社グループは、ネットシェイプ事業、アッセンブリ事業、フィルタ事業を展開している。ネットシェイプ事業は、精密鍛造に関わる金型、鍛造品を供給している。主に、自動車関連（エンジン、ミッション、駆動系など）の部品を作るための金型を製造販売している。日系自動車各社の系列メーカーと取引している。また、ネットシェイプ事業では、金型を使った鍛造も行っており、主にカーエアコンのスクロール部品の量産を手掛けている。

アッセンブリ事業は、ターボチャージャーのノズル部分の組み立てを手掛けている。ネットシェイプ事業同様、自動車産業向けの事業である。

フィルタ事業は、自動車産業以外に供給している事業となる。ステンレス金網を重ね、焼結したフィルター製品を、石油、ガス、化学、繊維、食品、航空宇宙産業など、幅広い市場で展開している。

ネットシェイプ事業およびフィルタ事業は宇治田原工場、アッセンブリ事業は京田辺工場が生産拠点となる。海外ではタイに2つの生産拠点を有しており、バンコク近郊のアマタナコン工業団地に立地するニチダイタイランドでは、ネットシェイプ事業およびアッセンブリ事業の生産を手掛けている。また、チェンマイ近郊に立地する、タイ・シンタード・メッシュでは、フィルターを生産している。このほか、販売拠点として、タイにニチダイアジア、米国オハイオ州にニチダイUSAを置いている。

2020年3月期第2四半期は、連結売上高79億2千5百万円（前期比5.7%減）、営業利益は5億5百万円（同22.4%減）、経常利益は5億2千6百万円（同21.0%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は3億4千9百万円（同20.7%減）となった。減収減益ではあるが、計画は達成している。

四半期別で見ると、第2四半期に入り、ネットシェイプ事業、アッセンブリ事業の売上高が減少した。フィルタ事業は、好調に推移している。経常利益は、第1四半期、第2四半期ともに2億6千万円台となった。前年を下回る水準である。

◆ネットシェイプ事業の売上高は微増。フィルタ事業は、売上高減も増益となる。

2020年3月期第2四半期のネットシェイプ事業の売上高は40億5千9百万円（前期比1.9%増）となった。金型部門は好調であったが、精密鍛造部門の売上高が減少した。ネットシェイプ事業では、金型の海外売上高が増加した。精密鍛造品部門では、スクロール鍛造品が米中貿易摩擦の影響を受け、国内外で売上高が減少している。

アッセンブリ事業の売上高は27億5千9百万円（同11.8%減）となった。海外のWG（ウェストゲート）ターボチャージャー部品の売上高が減少した。また、VG（可変型）ターボチャージャー部品に関しても前年の下半期ほど勢いがいない状況である。

フィルタ事業は、前年に電力産業向けの特需売上約2億6千万円があったため、売上高は減少している。しかし、他の主力ユーザー別向けや海外売上が増加し、内容として良い結果となった。フィルタ事業の利益面では、前年計上した特需案件の収益性が低かったこともあり、増益となっている。

ネットシェイプ事業の経常利益は、精密鍛造品の売上減少が影響し、減益となった。同様に、アッセンブリ事業の経常利益も、売上減少が影響し減益となっている。

売上原価では、材料費比率が、35.0%から33.3%に減少した。他製品と比較し、材料費ウェイトが低い金型部門の売上高が増加した影響である。また、在庫が1億2千5百万円減少した。金型部門の在庫が減少した影響である。

貸借対照表では、売上債権、たな卸資産の減少など、売上高減少による影響が生じている。以上のような貸借対照表上の変化は、キャッシュフローにも影響した。

◆2020年3月期は減収減益の業績予想。

下半期においても、米中貿易摩擦等が自動車産業に大きな影響を及ぼすことが予想される。そのなかで、通期予想は、当初予想通り、連結売上高155億円（前期比11.0%減）、営業利益10億円（同27.9%減）、経常利益10億円（同29.4%減）、親会社株主に帰属する当期純利益6億60百万円（同31.8%減）としている。

事業別売上高では、ネットシェイプ事業、アッセンブリ事業が自動車産業不振の影響を受けることを見込んでいる。ネットシェイプ事業78億4千万円（前期比5.9%減）、アッセンブリ事業54億4千万円（同15.9%減）の通期売上高を計画している。

フィルタ事業では売上高22億2千万円（同15.0%減）を計画している。昨年あった特需が見込めないことが要因である。

2020年3月期の設備投資額は、15億3千万円の計画としているが、進捗が遅い状況である。

また、配当は当期第2四半期で10円を決定した。期末予想も10円据え置きで、年間20円を予定している。

◆主な質疑応答◆

Q. ネットシェイプ事業の第1四半期から第2四半期にかけて、金型事業はどういう状況であったか？

→金型事業も落ちている。自動車産業の全体状況を見ると、企業によって格差がある一方、下落幅が当初予想以上になってきているというのが実感である。

Q. 価格値下げ圧力のようなものはあるのか。

→事業によって異なる。金型事業では、トータル力を武器に影響が最小限になるよう努めている。

Q. WG ターボチャージャー部品だけでなく、VG ターボチャージャー部品も減少しているのか。

→双方の部品とも最終ユーザーの影響を受けている。最終ユーザー名については機密事項であるので、回答できない。

Q. ハイテン材（ホットプレス）の考え方について教えてほしい。

→精密鍛造領域とは異なるため、実施していない。

Q. 先の見通しについて教えてほしい。

→現状、先行き不透明であるが、しばらく同様の状況が続くと考える。

Q. ネットシェイプ事業のうち、鍛造品の比率はどうか。

→金型と鍛造品の割合は開示していない。金型事業の売上高比率が高い。

Q. ネットシェイプ事業の金型の海外売上高が伸びているが、貿易摩擦の影響はなかったのか。

→アジア地域でダイセット（金型を搭載する治具）の売上が増加した。ダイセットのような周辺装置は投資要素が強く、足の長い案件であり、影響が出る前から手掛けていた。

Q. 設備投資計画に対して、上半期実績が少ないが通期ではどうなるのか。

→先行き不透明ななか、必要なものを精査して実施していく。

以上